

野村素介 ノムラ 素介 舊秋藩士、官僚。天保十一年五月十八日用防國吉敷郡長野村生れ、明治二十一年十一月二十三日歿（八四—一九二七）。舊姓有地、違止素、字純夫、通稱純輔、範輔、右中、素。號素軒、素軒主人、素軒居士、素軒素、素軒野素、野村素等。清皇、明治館、學び、安政六年江戸へ鹽谷安陰、小島成齋、漢籍、書を修學。明治元年山口藩參政兼ハ公議入、四年歐洲視察、翌年以降、次城縣參事、文部大丞、文部大書記官、元老院大書記官、同議官等々を経、二十二年貴族院議員、次々錦鶏閣祇候となる。善い長じて漢詩を能くし、書海英勵會會員、漢書書將勵會審查長等々務めた。

著書『名士の嗜好』（合著・中央新聞社編、明治二十二年一月二十一日）
日本文武堂）等。